吾國自神代禁毛血而爲穢物不食惟以米穀養斯民故名世根也今通呼古女古女卽顧命也又稱菩薩是乃朝鮮語也

〔物類稱呼三生植〕米こめよね　遠江國天龍の川上にてぼさつと稱す此所にては米といはずしてぼさつとのみとなふ

按に諸國より大峯或は羽黑山などへ詣るもの一七日齋す其內はぼさつと稱して米とは呼ずとなん西國又は朝鮮の方言にも穀を菩薩と云よし見えぬ

〔倭訓栞前編九古〕こめ　米をいふ小實の義成べし八木といふ事東鑑に見えたり麝香米あり光粳米也といへり

〔倭訓栞前編三十六與〕よね　日本紀倭名抄に米をよめり かしよねあらひよねなどいふ是也善米の義なるべし又こめと橫音通せり

〔日本書紀二十四皇極〕二年十月戊午蘇我臣入鹿獨謀將廢上宮王等而立古人大兄爲天皇于時有童謠曰伊波能杯儞古佐屢渠梅野俱渠梅多儞母多礙底騰哀羅栖歌麻之之能烏賦

〔空穗物語藤原の君〕たちばな一くはむとの給五月なかの十日比たちばなこれはなつてなしこの殿のみそのにあり みそかにいちめとりてまいる このいちめのはらに五ばかりにて有はゝをゑじておとゞに申こゝのたちばなをとりてなんまゐりつると申さんといひつればあはこめをつゝみてなんくれたりといふ

〔空穗物語藏開下〕かくてみちのくにのかみたねみがもとより せにまんまくたてまつれり よねはにしの御くらに三百石つまれたり おろしてつかはる くらはよつを三にはよねども一にはかねなどつまれたり

〔空穗物語國讓中〕そのくらのまへに十一けんのひはだや有 それはおさめどのにて よねよろづの物をおさめたり